

## 貧困に対する支援

問題 97 生活保護の種類と内容に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小学生の学校給食費は、生活扶助で行われる。
- 2 要介護認定を受けた80歳の被保護者の住宅改修費のうち介護給付にかかる自己負担分は、介護扶助で行われる。
- 3 通院のための交通費(移送費)は、生活扶助で行われる。
- 4 高等学校の教材代や通学のための交通費は、教育扶助で行われる。
- 5 就職が確定した40歳の被保護者が、就職のため直接必要とする衣服類の購入費用は、生活扶助で行われる。

問題 98 事例を読んで、Aさんに対する福祉事務所の現業員(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

### 〔事例〕

ホームレスの男性Aさん(55歳)は8年前にギャンブルが原因で多額の借金をつくり、会社を辞めて、その後就労しないままホームレスとして生活していた。婚姻歴はあるが30歳の時に離婚して子どもは妻が引き取りその後音信はない。最近、体調も悪くなったため生活保護を申請したいと考え福祉事務所に来所した。長年のホームレス生活のため、収入、資産に関する書類は所有していない。

- 1 居住地がないため居住地を定めてから保護申請するように説明する。
- 2 稼働年齢層なので就労先を決めてから保護申請するように説明する。
- 3 ギャンブルによる多額の借金がある場合には保護申請はできないと説明する。
- 4 収入、資産に関する書類がなくても保護申請は可能だとして、申請手続きについて説明する。
- 5 保護申請に先立って、子どもへの扶養調査が必要だと説明する。

問題 99 生活困窮者自立支援法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生活困窮者自立支援法の改正(2018年)により、任意事業に健康管理支援事業が追加された。
- 2 住居確保給付金の支給審査や支給決定及び支給の業務は、福祉事務所設置自治体が行う。
- 3 生活困窮者自立支援法では、相談支援とともに飲食物費や光熱水費について金銭給付を行うことを通じて自立を図ることを目的としている。
- 4 一時生活支援事業は、低所得世帯であって世帯内の高齢者や子どものケアを行っている家族が一時的に休息をとれるようにサポートする事業である。
- 5 生活困窮者自立支援法は、日本の永住者資格を有する外国籍の人を対象外としている。

問題 100 次のうち、生活福祉資金貸付制度の総合支援資金に含まれるものとして、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 生活支援費
- 2 緊急小口資金
- 3 教育支援費
- 4 就学支度費
- 5 一時生活再建費

問題 101 事例を読んで、生活困窮者自立相談支援機関の相談支援員による支援に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(25歳)は、両親と3人で暮らしている。高校卒業後、工場に就職したが職場での人間関係がうまくいかず3か月で退職した。その後も短期間での転職を繰り返し、ここ2年ほどは無職である。仕事上の失敗が続いたことから就労への意欲が低下して、引きこもり状態である。そこで、Aさんの状況を見かねた両親は、本人とともに社会福祉協議会に設けられている生活困窮者自立相談支援機関の窓口に行き相談した。Aさんもこのままではいけない、どうにか1歩前に進みたいと意欲を示し、両親からもAさんを支えていきたいとの気持ちが示された。

- 1 生活保護を受給する可能性を探るため、資力調査を行う。
- 2 生活保護の受給に先立って、自立支援プログラムを策定し、参加を勧める。
- 3 Aさんの課題を把握し、自立相談支援機関による支援を継続するか、他機関につなげるかを判断する。
- 4 ハローワークで求職活動を行うよう、生活困窮者自立支援法に基づく指導・指示を行う。
- 5 自立生活のためのプラン案を策定するため、支援会議の開催を依頼する。

問題 102 事例を読んで、退院を控えたAさんに対する福祉事務所の現業員(社会福祉士)の説明に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(26歳)は、両親を早くに亡くし、児童養護施設に入所した。退所後は就職した会社の寮に入っていたが病気のため退職し、入院治療となった。収入は途絶え預貯金もなくなったため、生活保護を受けて療養していたところ、医師はそろそろ退院でき、後遺症も残らないという。Aさんは、退院後は地域で生活したいが、仕事や住まいに不安が大きいため、病院のソーシャルワーカーに相談したところ、現業員を交えて3人で話し合いをすることになった。

- 1 「退院したら治療が必要なくなるので、医療扶助は廃止になります」
- 2 「アパートを借りる場合には、敷金や礼金が住宅扶助から支給されます」
- 3 「地域での生活が落ち着いてからハローワークに行ってはどうか」
- 4 「退院後、救護施設に入るよう手続きをしておきます」
- 5 「退院後、しばらくは児童養護施設で生活できるように施設長にお願いしておきます」